

## CEFRとケンブリッジ英検スケール

ヨーロッパ共通参考枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)\* の開発に深く関与した歴史的経緯から、ケンブリッジ英検はCEFRのレベルと整合性が高く、学習者が目標とするCEFRのレベルに到達しているかを判定する際の基準となるテストとして世界中で活用されています。ケンブリッジ英検スケールのスコアは、従来の受験者プロフィール (candidate profile) と標準得点 (standardised scores) に代わるもので、グレードとCEFRレベルによる評価は受験結果として引き続き記載されます。言語の4技能 (リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング) および文法・語彙知識\*\*の成績が新スケール上にそれぞれスコア (80-230) で表示されるため、受験者はより詳しい情報を得ることができます。新スケール導入によりケンブリッジ英検の各試験やCEFRとの比較が分かり易くなります。

例えば、スコアが180-199ならばCEFRのC1レベルに相当します。つまりC1レベルで最も低い受験者のスコアは180になります。ファースト、アドバンスト、プロフィシエンシーの異なるレベルの試験で同じスコアの場合、学習到達度は同等とみなされますが、上級レベルの試験はより高度な認知プロセスと機能を網羅する出題となっている点にご留意下さい。

なお、スコアが180の場合、ファーストはグレードA、アドバンストはグレードCで合格ですが、プロフィシエンシーは不合格判定となりCEFRレベルのC1が認定証に記載されます。

\* : 2001年にCouncil of Europe (欧州評議会) が発表した言語運用レベルの基準  
\*\* : ファースト (上級) 以上の試験のみ文法・語彙知識に関する出題あり

## ケンブリッジ英検 キー・フォー・スクールズ (上初級 - CEFR: A2) でテストされる内容について \*\*\* (計 約1時間50分)

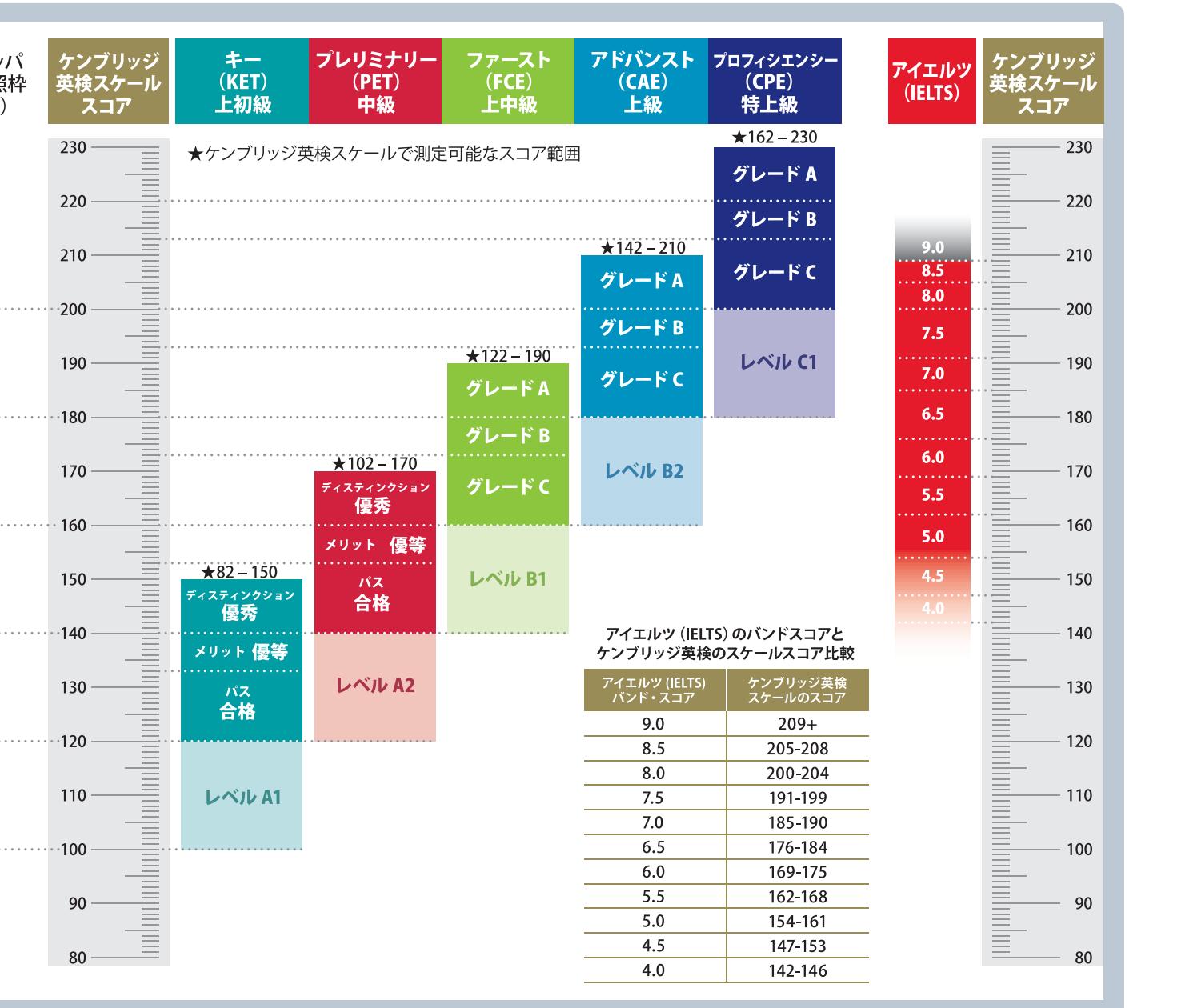
問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル (出題意図)
Reading & Writing リーディング＆ライティング 1時間 10分 配点: 全体の 50%	「読む」 「書く」 テストには9つのパートがあり、出題方法は次のとおりです。 ・標識文を理解文をマッチングさせる ・多肢選択式テスト ・長めの会話への返答として適切な答えを選ぶ ・やや分量の多い会話を適切な文章を選ぶ ・綴りの知識 ・空所補充問題 ・情報文転記するタスク ・問題の指示に従って書くタスク (25-35語程度)	・実生活に存在している標識や看板を理解する ・文章を理解して正しい単語を選ぶ ・文章を理解して正しい答えを選ぶ ・会話を正しい順番に並べる ・単語の正しい綴りがわかる ・正しい単語を選んで文章を完成させる ・欠けていた単語を補充してメールや手紙を完成させる ・重要な情報を補充して文章を完成させる ・短いメモ、メールやはがきを書く
Listening リスニング 約 30 分 配点: 全体の 25%	「聞く」 テストには5つのパートがあり、出題方法は次のとおりです。 ・短い会話を聞いて多肢選択式で答える ・「人」と「もの」の名前 (名詞) のリストをマッチングさせる ・会話を聞いて内容に合ったものを多肢選択式で答える ・一人、もしくは二人で話している会話を聞いて解答用紙に欠けている単語を書き入れる	・短めの会話、長めの会話、話者一人の発話に含まれる重要な情報を聞きとる ・重要な情報を聞いて書きとめ、単語の綴りを正しく書く
Speaking スピーキング 約 8-10 分 受験者2名のペアで受けける 対面式テスト 配点: 全体の 25%	「話す」 テストには2つのパートがあります。 最初のパートで、試験官は受験者に「お互いを理解する」ための質問をします。 次のパートでは、ペアを組んでいるもう一人の受験者と質疑応答をします。	・自分に関する質問に答える ・カードを読み、欠けている情報を得るためにもう一人の受験者に質問する ・カードを読み、もう一人の受験者の質問に答える

## ケンブリッジ英検 プレミナリー・フォー・スクールズ (中級 - CEFR: B1) でテストされる内容について \*\*\* (計 約2時間12分)

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル (出題意図)
Reading & Writing リーディング＆ライティング 1時間 30 分 配分: 全体の 50%	「読む」 テストには5つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 ・5つの短文に関する質問について、多肢選択式テスト ・短文に対する記述文マッチングさせる ・長めの文章に関する正誤問題に答える ・長文を読み、作者の考え方など、さまざまな事柄に関する理解度を測る多肢選択式テスト ・多肢選択式の空所補充問題 (空所のあるテクストについて正しい選択肢を選んで空所をそれぞれ補充していく問題)	・要点を読み取る ・特定の情報を探し出して詳しい情報を読み取る ・作者の目的、態度、意見について理解する ・長めの文章に対する正誤問題に答える ・短文の語彙や文法を理解する
Listening リスニング 約 30 分 配分: 全体の 25%	「聞く」 テストには3つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 ・文変形問題 (もう一つの文章と同じ意味になるように文章を完成させる問題) ・いくつかの情報を伝えるための短いメッセージを書くこと (35-45語程度) ・さらに長い文章を書くこと ・物語文と公式の手紙のいずれか、2つの選択肢から1つ選んで約100語で書く	・B1レベルの文法構造を使いこなして理解する ・ある情報を含む短いメッセージを書く ・さらに長いテクスト (物語もしくは非公式の手紙) を1つ書く
Speaking スピーキング 約 10-12 分 受験者2名のペアで受けける 対面式テスト 配分: 全体の 25%	「聞く」 テストには4つのパートがあり、出題方法は次の通りです。 ・短文の主要な情報と、長い会話文とモノローグを聞き取る ・詳しい意味を聞いて話者の態度や意見を識別する	・受験者の現在の状況、過去の経験、そして将来の計画について議論する ・ある状況について、パートナーと一緒に話し合う ・書きについて長く時間説明する ・好きなもの、嫌いなもの、お気に入りのこと、習慣について話をする

\*\*\* : 中高生対象のケンブリッジ英検である「キー・フォー・スクールズ」、「プレミナリー・フォー・スクールズ」、「ファースト・フォー・スクールズ」は、成人学習者を対象とするケンブリッジ英検の「キー」、「プレミナリー」、「ファースト」と同じ形式かつレベルのテストですが、中高生の経験および関心に対応しており、中高生の受験者に配慮したより適切な試験内容になっています。

## ケンブリッジ英検スケールと各試験のスコア比較表



## 認定証が発行されるスコア範囲

ケンブリッジ英検スケールの图表中★で示されているスコア範囲には、認定証が発行されないスコアも含まれています。例えば、ファースト・フォー・スクールズでは、スコアが160-190の場合は合格のグレードと「Council of Europe (欧州評議会) レベルB2」が記載されます。140-159の場合は不合格になりますが、レベルB1とCEFRレベルが記載されるので英語力の証明にお使いいただくことが可能です。スコアが122-139の場合は結果ステートメントにスコアは記載されますが、認定証の発行はありません。

## ケンブリッジ英検 アドバンスト (上級 - CEFR: C1) でテストされる内容について

(計 約3時間55分)

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル (出題意図)
Reading リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30 分 配点: 全体の 40%	パート1-3: テクストに基づく出題で、多肢選択問題8問、穴埋め問題8問、語幹が与えられ適切に変化させて答える空所補充問題8問。 パート4: 導入文と同じ意味になるように3-6語で文章を書き換える空所補充問題6問。 パート5: 読解問題6問。4つの選択肢から選んで答える。 パート6: 4つの短文に関する多重マッチング問題。 パート7: 読解問題6問。文中から抽出された6つの段落を元の位置に戻す作業。	読解力と文法および語彙の基本的知識をテストする。
Writing ライティング 1時間 30 分 配点: 全体の 20%	パート1: 必修問題。問題文にある2つのポイントに基づいて220-260語でエッセイを書く。より重要なのはどのポイントか、そしてその主張を支える根拠について説明する。 パート2: 手紙、提案書、報告書、書評 (批評) 等、3つの選択肢から1つ選んで220-260語で書く。簡単な文脈、トピック、目的、対象となる読者等がチェックされる。	内容、コミュニケーションの達成度 (適切に内容を伝えているか)、構成、ことば (語彙と文法) の評価基準に照らして採点。
Listening リスニング 約 40 分 配点: 全体の 20%	4つのパートに分かれおり計30問。短い抽出文や長いモノローグ、インタビューもしくはディスカッション、特定のテーマに関する多重マッチング問題。 パート1: 各段落が1つ追加され、7段落が選択肢として与えられている。 パート2: 余分な段落が1つ追加され、7段落が選択肢として与えられている。	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定の情報、話者の意見や態度、感情等をとらえる力をテストする。
Speaking スピーキング 15 分 受験者2名のペアで受けける 対面式テスト 配点: 全体の 20%	パート1: 試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 パート2: 試験官が示す写真を見て受験者が自分の言葉で約1分間説明する。その後写真の内容について試験官がもう一人の受験者間で質問をする。 パート3: 写真にまつわる情報や質問が記載されたカードが試験官より渡され、それをもとに受験者間でディスカッションを行う。 パート4: パート3のトピックに関連して、自分の意見の正当性を説明したり、前のパートよりもさらに深い議論を行う。	文法・語彙力のほか、発音、自分の意見をまとめる能力、議論を始める力や持続させる力、交渉して結論に達する力等、多くの項目がテストされる。

## ケンブリッジ英検 プロフィシエンシー (特上級 - CEFR: C2) でテストされる内容について

(計 約3時間56分)

問題用紙の種類	内 容	測定されるスキル (出題意図)
Reading リーディング & Use of English 文法・語彙 1時間 30 分 配点: 全体の 40%	パート1-3: 文法・語彙問題で空所補充問題 (多肢選択式、記述式各8問)、語幹から適切に変化させて答える問題8問。 パート4: テクストに基づく問題ではなく、与えられた単語を変化させずに用いて、導入文と同じ意味になるように3-6語で文章を書き換える問題6問。 パート5-7: 長めの読解問題3問題。多肢選択式問題、空所補充 (段落)、多重マッチング問題。	パート1-4で測っているのは、受験者の基本的な語彙と文法知識。 主にパート1は語彙、パート2は文法、パート3はいかに接続が語形成に影響を与えるかについて問う。パート4-7: 長めの読解問題3問題。多肢選択式問題、空所補充 (段落)、多重マッチング問題。
Part 1-4 文法・語彙問題	パート1: 長めの読解問題3問題。多肢選択式問題、空所補充 (段落)、多重マッチング問題。	かなり詳細で読み込む読解スキルが求められる。例えば、議論や一貫性、結合を理解しているか、特定の情報を探したり、スキム・リーディング (斜め読み) など。
Part 5-7 読解問題	パート5-7: 長めの読解問題6問。4つの選択肢から選んで答える。 パート6: 読解問題6問。文中から抽出された6文を元の位置に戻す作業。 パート7: 各設問が1文追加され、7文追加される。	思われる問題にトピックに取り上げている。誰もが関心を持つ話題、学術的な意見や感情、テクストの構成や主旨を理解する豊富な読解力を有しているかをテストする。 また、概要をつかむ読解力を求められる。
Writing ライティング 1時間 30 分 配点: 全体の 20%	パート1: 必修問題。2つの短文 (約100語) を読んで主要な意見をまとめて240-280語でエッセイを書く。 パート2: 記事、手紙、報告書、エッセイ、書評 (課題図書含む) の5つの選択肢から1つ選んで280-320語で書く。	あるトピックについて上手く意見をまとめて発展させることができると、文章を通じて読み手に深い印象を与えるか、言葉の用い方、書く課題の目的をどれほど上手く達成しているかについてテストされる。
Listening リスニング 40 分 配点: 全体の 20%	パート1: 3つの短い抽出文を聞き2問ずつ3つの選択肢から選ぶ。6問。 パート2: 3-4分間にわたるモノローグを聞いて適切な単語やフレーズを補充して10文完成させる。 パート3: 関連する5つの短いモノローグを聞いて、選択肢から正しい内容を選んで5つの問題に答える。不要な選択肢あり。 パート4: インタビュー、もしくは二人の会話文を聞いて選択肢から正しい内容を選んで7つの問題に答える。	実生活で使える「英語を聞く力」について広く測る。抽出文全体の概要、特定のトピックに関する詳細情報、話者の意見等をとらえる力をテストする。
Speaking スピーキング 16 分 受験者2名のペアで受けける 対面式テスト 配点: 全体の 20%	パート1: 試験官と各受験者間で簡単な自己紹介等のやりとりをする。 パート2: 試験官が示す2枚の写真を見て各受験者が自分の言葉で約1分間説明する。その後写真の内容について試験官がもう一人の受験者に質問をする。 パート3: 余分な段落が1つ追加され、7段落が選択肢として与えられている。 パート4: パート3のタスクに関連したトピックについて議論する。	発音、抑揚、発話のスピード、自分の意見をまとめる能力、交渉力、議論を持続させる力、多くの項目がテストされる。

2014年12月までReading (リーディング) と Use of English (文法・語彙) は別々に実施されていますが、2015年1月より上記のとおり統合して実施。